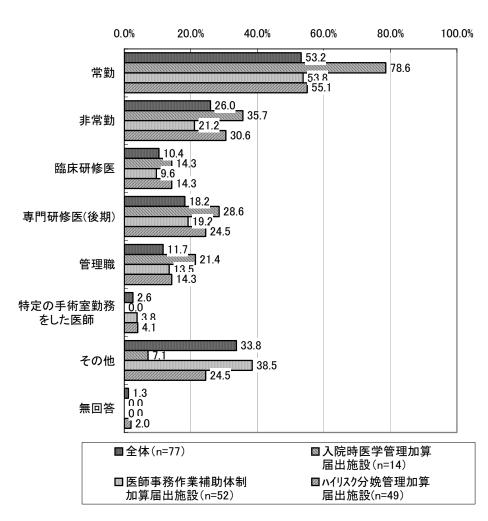
特定の医師に対して「手当を増やした」という 77 施設について、その対象とした「特定の医師」の内容をみると、全体では「常勤」(53.2%)が最も多く、次いで「非常勤」(26.0%)、「専門研修医(後期)」(18.2%)であった。この傾向はいずれの届出施設においても同様であり、「入院時医学管理加算」の届出施設では「常勤」が 78.6%、「非常勤」が 35.7%、「専門研修医(後期)」が 28.6%であった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「常勤」が 53.8%、「非常勤」が 21.2%、「専門研修医(後期)」が 19.2%であった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「常勤」が 55.1%、「非常勤」が 30.6%、「専門研修医(後期)」が 24.5%であった。



図表 55 手当を増やした特定の医師(複数回答、施設基準届出別)